

若者の就職・進学に関する意識調査 簡易集計結果について

1. 調査実施の背景

本市では、地域の担い手となる若者が就職や進学を機に地域外に転出すると地元に戻ってこないことが人口減少の要因として課題となっている。そのため、奨学金の返済に対する支援や若者の地元定着、Uターンにつながる効果的な施策の検討にあたり、当地域の高校生等とその保護者の就職・進学に関する意識について実態を把握することを目的にアンケート調査を実施した。

2. 調査の概要

対象校	13校	鶴岡市内公立・私立高等学校、鶴岡工業高等専門学校、高等養護学校、養護学校高等部
対象者	生徒:1,606人 保護者:1,606人 計:3,212人 高校3年生、高専5年生の生徒及び保護者	
調査方法	アンケートによる	
調査期間	令和元年6月11日～7月24日	
回収方法	各校の協力のもと、生徒及び保護者へ調査用紙を配布・回収	
回収率	生徒: 80.6% (1,294人) 保護者: 60.8% (977人)	
実施方法	本調査は、本市と慶應義塾大学との連携協定に基づく共同研究として同大玉村雅敏教授の指導を受けて実施。	

3. 調査結果の内容

《生徒の進路選択に関する状況》

- ・6割の生徒が就職より進学を希望。

進学希望者 59.5% (770人)、就職希望者 38.0% (492人) [(質問1) 別添 P4]

- ・進学希望者の半数は本市含む庄内地域への就職を希望しない。

進学者中地元就職を希望、どちらかという希望が 45.7% (352人)、希望しない、どちらかという希望しないが 52.5% (404人) [(質問3-①) 別添 P16]

- ・地元(庄内地域)就職の検討に、地元就職を希望する者、希望しない者とも地元企業情報の入手が大切と回答。

地元就職希望者 53.3% (307人)、非希望者 45.0% (236人) [(質問3-3) 別添 P20]

- ・地元の企業を知る機会は、進学、就職いずれの希望者も学校の授業・実習。

進学希望者 53.5%、就職希望者 69.1% [(質問4-1) 別添 P23]

生徒の地元回帰を促すためには、まず、生徒が地元企業などの情報を豊富に得ら

れるようにすることが必要であり、生徒が地元の企業を知る機会・手段の中心が学校の授業・実習となっているため、特に進学を希望する生徒に対して高校と密な連携を図って対策を講じていくことが必要。

《保護者の子に対するUターン希望と子の希望》

- ・子の意志を尊重する傾向だが、保護者の半数は子のUターンを希望。
進学・就職先は子の意志を尊重 [(質問1-1-1) 別添P34]
子のUターンを希望 53.5% (523人) [(質問5) 別添P43]
- ・地元就職を希望しない理由は都会への憧れと地元企業の情報不足
都会が便利 44.3% 志望の仕事がなさそう 37.4% [(質問3-2) 別添P19]
保護者の半数は、子のUターンを希望しているが、進学や就職先は子の意志に任せている。子が地元を選ばない理由に、志望する仕事がいなさそうとする回答が多く、地元企業に対する情報不足が伺える。子に選んでもらえる工夫を講じていくことが必要。

《地元就職に繋がる経済的支援》

- ・Uターンで奨学資金の返済が支援されれば支援を希望する保護者は半数以上。
利用したい 56.6% (314人) [(質問4) 別添P41]
- ・地元就職を希望する者、希望しない者とも地元企業情報の入手が大切と回答。
地元就職希望者 53.3% (307人)、非希望者 45.0% (236人)
[(質問3-3) 別添P20 再掲]
保護者アンケートは経済的支援への希望が高い反面、生徒アンケートでは、地元企業などの情報が豊富にあることが望まれ、経済的支援だけでなく支援が必要。

《地元への愛着度と地元就職意向の関連性》

- ・地元へ愛着を持つほど地元就職を希望
地元へ「強く愛着を感じる」者のうち地元就職を希望する割合 59.6%
地元へ「愛着を感じる」者のうち地元就職を希望する割合 45.8%
[(質問7-①) 別添P30]
地元就職者数を増やすために、生徒の地元への愛着心を育てていくことが必要。

4. 今後の取組み

調査結果をより詳細に分析、検討するとともに、併行して学校、関係者、有識者から意見聴取を行い、奨学金返済支援など経済的な支援策や若者の地元定着、Uターンにつながる効果的な取組みについて具体的な検討を進める。

なお、今般の調査結果については各高等学校等へ報告し、市HPでも公表する。